

巻 頭 言

研究紀要発刊に当たって

校 長 藤 井 慶 博

今年度から「児童生徒の生涯学習力を高める教育課程の編成」というテーマの下、研究に取り組むことといたしました。

我が国では「誰もが、障がいの有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会」の実現を目指しています。そのため、誰もが学び続けることのできる社会づくりに加え、人々の多様な生き方・在り方が尊重され、個性や得意分野を生かして参画できる社会であることが求められています。

児童生徒一人一人に視点を移すと、学校で身に付けた知識・技能だけで、変化の激しい社会を生き抜くことはできないでしょう。刻々と変化する社会や状況に対し、自ら課題を見だし、課題解決のためにどのようにアプローチが必要なのかを考え、実行し、評価していく力が求められています。

また、多様な人々を包摂し、生涯にわたる学びを支えるための地域資源や人材の育成といった基盤整備も必要になるでしょう。そのために学校が果たすべき役割は何なのか。

大きなテーマへの挑戦となる今年度は、じっくりと研究を進めてきました。また、当事者の方々をはじめ、秋田県教育庁生涯学習課及び生涯学習センター、秋田県健康福祉部障害福祉課をはじめ、様々な関係団体の方々にも御協力いただきました。

研究を通して、子どもたちは卒業後も自らの生活の充実に向け新たな学びを求めていることや、地域には子どもたちの学びを支える資源が多数存在すること、その資源とつながるための接着剤のような役割が必要であることなどが明らかとなりました。また、これまで「就職か?」「福祉的就労か?」と二者択一的に考えられてきた進路に関して学校卒業後のさらなる学びの場や機会も必要であるといった示唆を得ることもできました。これら研究の実践と成果・課題をまとめましたので、御高覧いただき御指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます。

本テーマの研究期間は2年間ですので、来年度はまとめの年となります。「生涯学習力を高める教育課程とは具体的にどのようなものなのか?」「これまでの教育課程の何がどのように改善されたのか?」といったことをお示しすることになります。関係各位には一層の御指導・御鞭撻をお願い申し上げます。